

西濃農林事務所の普及活動状況

平成30年2月28日現在

今月の重点活動

■ 西濃農業の活性化を目指すセミナー 平成29年度普及・営農指導活動成果報告会を開催

西濃農林事務所は2月21日、JAにしみの及び西南濃農業普及事業推進協議会との共催で、西濃農業の活性化を目指すセミナーを開催した。普及活動報告として「土地利用型経営体の育成と経営改善に向けて」では、法人化等による担い手育成や、経営補完品目及び低コスト省力化を目的とした新技術の導入について、また「梨産地に風を起こす」では、梨根圏制御栽培法の実証や後継者育成に係る発表を行った。JAにしみの営農指導員（TAC）からは、「ケイ酸加里の施用時期による食味への影響について」として、土づくり資材の施用時期による水稻の生育並びに食味に及ぼす効果について発表があった。JGAP上級指導員による講演では、GAPに関する状況、GAPをする、とるに当たっての視点などが詳しく説明された。セミナーには約160人の出席があり、西濃農業の活性化について考えるとともに、出席した農業者及び関係機関職員の情報交換の機会ともなった。農業普及課はセミナーの組み立て、開催を主体的に行った。



【普及活動を報告する普及指導員】

■ 普及活動 平成29年度「西濃地域農政推進会議」を開催

2月26日、大垣市役所東庁舎会議室で管内市町、JAにしみの、西濃農業共済組合及び農林事務所（農業振興課、農業普及課）担当者が集まり、平成30年度の普及指導計画、農業振興施策などの検討を行った。

農業普及課からは30年度の基本計画及び行動計画（12課題）について、農業振興課からは30年度事業概要の説明が行われた。市町、JA、農業共済からも30年度施策等の情報提供があり、相互に情報共有や活動推進に係る協力が再認識された。

多様な担い手づくり

■ 青年農業士 出前講座を実施～県就農支援センター研修生に熱く語る～

2月1日、県就農支援センターにおいて、西濃青年農業士会員2名による研修生4名を対象とした出前講座が開催された。青年農業士からは、就農した経緯や農業のやりがい、経営面でのアドバイス等があり、研修生は熱心に聞き入っていた。とりわけ、補完労働力の確保や、人的ネットワーク（仲間づくり）の話題では、普段の技術講習では聞けない話が聞け、研修生が就農するに当たり大変興味深かったとの感想があった。研修生からも多くの質問があり、双方向で意見交換できた出前講座となった。

農業普及課は、出前講座の実施と当日の運営等を支援した。



【少人数で、活発に意見交換できた出前講座】

■ 指導農業士・青年農業士 大垣養老高校で出前講座を実施

西濃地区指導農業士・青年農業士は2月20日、大垣養老高校環境園芸課の生徒39名を対象として出前講座を実施した。当日は指導農業士（いちご）1名、青年農業士（鉢花）1名が講師となり、経営概要、就農のきっかけ、農業の魅力等について講義するとと



【力説する指導農業士】

もに、いちごの試食も行われた。農業士からは、農業は努力の成果が感じられる仕事であること、自らが経営者であり、仕事の段取りや栽培・経営計画に創意工夫が活かせること、その反面、自己責任の部分も大きく、失敗した時のリスクも大きいことなどが説明された。生徒は、地域の農業をリードする農業士の人間性にも興味をもって話しに聞き入っていた。

農業普及課は、関係機関との連携を行い、出前講座の開催を支援した。

■ トマト就農支援センター研修生 第4回西濃地域就農支援会議の開催

2月27日、就農支援センターにおいて就農支援担当者会議が開催された。会議では、研修第5期生の募集状況と4期生の就農計画について検討された。西濃管内に就農予定の第4期生2名はいずれも地元の農業後継者であるが、施設の高騰等の対応について話し合われた。これまで、事業の都合により施設の完成検査が定植直前になっていたが、現地からの要望により事務のスケジュールが見直された結果、第4期生は余裕を持って施設を完成させる予定となった。農業普及課からは、土耕と養液栽培の併用による土壌病害リスクの再確認、第5期生に50歳代の方が2名みえることから、空きハウス利用等について検討する必要があることなどを関係機関と協議した。

■ 中山間地域の活性化 垂井町の担い手組織が視察研修を行う～中津川市合同視察～

2月26日、垂井町の機械化営農組合連絡協議会と農事改良組合連絡協議会が合同で視察研修を行った。中津川市の（農）はちたかを訪問し、中山間地域での営農組織の経営管理について説明を受けた。中山間地域が点在する垂井町各組織代表者の関心は高く、質疑応答では活発な意見交換が行われた。畦畔管理の軽減を目的としたセンチピードグラス実証ほでの実地研修では、少ない草刈りでの管理状況に参加者の多くが感嘆していた。

農業普及課は、担い手育成をはじめとして、中山間地域の活性化を推進する。



【代表理事の話を熱心に聴く協議会メンバー】

売れるブランドづくり

■ GAP JGAPの内部検査を受ける～管内2法人～

(有)JAにしみの興農社は、大垣市内で水耕レタスを生産しており、認証GAPの取得を目指している。1月31日に、県のGAPアドバイザー派遣事業を活用して、内部検査を受けた。検査では、GAP総合研究所の指導員から、書類及び栽培ハウスについて手順書に基づく確認を行い、大きな問題はなかったもののいくつかの改善点の指摘を受けたため、その是正を進めることになった。

また、2月22日には神戸町でねぎを生産している(株)アグリ・F・神戸でも同様の内部検査が行われた。こちらも関係書類並びに出荷調製場、現地ほ場を巡回、確認し、改善点とその是正を協議した。

農業普及課では、経営体と連携しながらGAPを推進していく。



【内部検査の様子】